

毎日終日コロナの感染者数の話で解決することなく、経済の方もいろいろと明るい話題もなく、また夏も近いというのに蝉も鳴かず飛ばずで、一体どうなっていくのでしょうか。

原稿を書いているこの時期も連日200人超えが続いている東京ですが、1400万の大都市なのでワクチンが早期開発されなければ、およそ1世紀前におきたスペイン風邪をも連想してまいります。あのウイルスは変異して第2波が起きてしまったのですが、今回同じようなことが起きなければと切に願うばかりです。

さて、東京アラートが発動されて赤色に点灯していたレインボーブリッジですが、今は青色点灯となっています。これは医療関係者等応援ライトアップということで4月より実施されていたことなのです。また、東京オリンピック開催の願いを込めてのモニュメントもライトアップされています。

一日でも早く世界中の新型コロナが終息しますように。

東日本物流センター 東日本営業本部(センター長:木下 敦裕)

皆様いかがお過ごしでしょうか。

今回は名古屋市近郊にあるブルーベリー園を紹介いたします。

名古屋市の隣、豊明市にある『ブルーベリーとよあけ』という所で、名古屋市内からすぐに行けます。ここでは2018年から摘み取り園を開いて、90分間食べ放題とのこと。(もちろん料金がかかりますが…)

ブルーベリーはアメリカ原産で、ノーザンハイブッシュ系、サザンハイブッシュ系、ラビットアイ系の3タイプあり、それぞれ多くの品種が開発されているそうです(ブルーベリーに、そんなに種類・品種があるとは知りませんでした！)

摘み取り期間は7月から9月上旬まで。多くの品種が食べごろになるのは7月下旬らしいです。品種だけでなく木によっても味が異なるので、好みの味の木を見つけるのも良いかもしれません。ブルーベリーは追熟しないので、樹上完熟の状態が一番おいしいそうです。

この園はブルーベリーを完全無農薬、除草剤不使用で栽培しており、食べる側からすると安心ですね。

名古屋営業所(所長:高橋 鉄夫)

KOYORAD

世界の拠点から
-From the base in the world-



本来梅雨がなく初夏となるはずの北海道ですが、雨の日が多く蝦夷梅雨のような毎日です。皆様北海道のスイーツで有名な『六花亭』をご存じだと思います。こちら実は直営店は現在も北海道にしかないんですよ。その六花亭創業の地、帯広に『六花の森』と『六花亭レストラン・ポロシリ』があります。以前から一度は行きたいと思っており、野外で密にならないため行って来ました。六花の森は8つのエリアに分かれていて、それぞれに様々な花と緑につつまれて気持ち良い時間を過ごせる場所となっています。一周するだけで体中が浄化された気持ちになれました。

実は今回の本命はそこから2分程、中札内美術村の敷地内にある六花亭レストラン・ポロシリ。こちらには美味しい野菜をメインにした料理を食べたくて来ました。この美術村には小さな美術館が7つあり、北海道にゆかりのある方々の作品が展示されています。3つ程見学し早々にレストランへ向かいました。ポロシリとはアイヌ語で『大きい・山』の意味で十勝幌尻岳を意味しています。自然の林の中にひっそりとあるので見つけにくい場所です。料理は野菜が主役となるメニューが中心です。ビーフシチューで言えば、肉も美味しいのですが脇役のジャガイモが絶品でした。

皆様にぜひお勧めします。

札幌営業所(所長:利川 光浩)

関西でも、日に日に感染者数が増えている状況です。この便りが出る頃には落ち着いている事を願うばかりです。さて、皆さんは7月3日は何の日かご存じですか？

もちろん他にも何々の日とはありますが、7月3日は通天閣の日です。特に大きな告知やイベントが無かったので関西在住の私でも今年初めて知りました。先月もちよっと書きましたが、コロナ禍で安全をPRする緑にライトアップされています。営業も再開された様です。

その通天閣、今から108年前の明治45年7月3日に完成。『天に通じる高い建物』の意味で通天閣と命名されました。昭和18年に近隣の映画館の火災に巻き込まれて一旦潰され、昭和31年に2代目通天閣に替わっていますが、初代通天閣の電灯工事は当時17歳の松下幸之助が配線工で参加していたとの事。歴史を紐解くと知らない事がまだまだあると痛感しました。2007年には登録有形文化財に認定されています。

近年、『くいだおれ』や『つばらや』など大阪のシンボルが次々と廃業していますが通天閣は100年後も大阪のシンボルとして営業し続けてほしいですね。

大阪営業所(所長:藤谷 弘行)

コロナウィルスの影響で未だ自粛生活を続けている今、早く収束し『世界の拠点から』で新しいことを書きたいものです。

さて、今回は以前行ったことがある久留米成田山をご紹介します。福岡県久留米市にあり、正式名称は『大本山 成田山 久留米分院 明王寺』。巨大な慈母観音像が有名で、近くからはもちろん、かなり遠くからでも頭の部分が見えていてずっと気になっていた場所です。実際に成田山に着いて観音像を見上げると本当に大きくて、高さ62mは伊達ではありません。しかも観音像内部を上まで上がっていきけるとのこと。辛いであろう階段の上り下りより好奇心が勝ってしまい、いざ出発…。ここで自分自身の浅はかさを痛感しました。なぜかという高さ62mです。中にはエレベーターなんてものもなく、螺旋階段のみです。ものすごくしんどいです(泣)。

登れど登れど頂上に着かず、やっと着いた展望台には久留米市内を見渡せる小さな小窓のみ…(汗)。また、下り階段は持病の膝に響いてこれまた痛い…(号泣)。観音像内を制覇したころには膝が笑っていたの言うまでもありません。

因みにこの観音像の同じ敷地にインドの『ブッダガヤ大菩提寺』のレプリカがあったり、地下には『地獄館』があったりします。コロナウィルスが落ち着いたら、もう一度観音像内へチャレンジしたいと思います。

福岡営業所・沖縄配送センター(所長:江頭 慎司)



牛、ヤギを解体し、肉を貧しい方に配るイスラム教の行事があります。

だいたい牛は一般的に500kg～600kgで価格は22万円ほど。富裕層は1トン以上買い、値段もそれなりにします。牛一頭を7人まで一緒に購入が可能です。ヤギの場合、通常一頭3万3千円し、個々に購入します。配るための一人分は約2kg。牛が500kgの場合、肉の重さは約60%、それに骨や内臓。つまり一頭あたり大体150人分になります。通常、場所・時間を決めて人を集めて配りますが、現在コロナが蔓延しており、どのように配るか悩んでいます。地域によって牛の数は違いますが少なくとも10頭はいます。すると10頭を解体し、肉を約2kgに切り分け1500人に配ります。経験上、7～8時間かかります。朝8時からスタートして、配りきるのは16時頃です。

今年は慎重な配り方をしないとコロナの感染拡大に繋がる可能性が高いと言われています。どんなに並んでくださいと言っても、担当者たちが厳しく注意しないと並ぶ人たちはぐちゃぐちゃになり、ソーシャルディスタンスは保てません。

コロナの感染が収束していない状態ではかなり気を付けないと、この行事によって感染者数が増えることは間違いありません。

KJ(インドネシア)(工場長: S.Akhyar)

～ついに国内メーカーも登場～

威士忌。字づらからは予想しづらい単語です。中国語読みは『ウェイシージー』。英語の発音に近い音の字を当てた外来語ですね。

中国のお酒と言えば、高粱などを主原料にしたアルコール度の高い『白酒』や『紹興酒』などが有名です。もちろんビールも各地で生産され、さらに中国産のワインも年々生産量が伸びています。

そして近年注目が高まっているのが日本の威士忌(ウイスキー)です。『山崎』、『竹鶴』、『響』、『白州』など日本の名酒とされる銘柄が今では希少価値が高まり、なかなか手に入らず、富裕層の間では投機の対象にもなっています。1月にサントリーから『山崎55年』が100本限定300万円で発売された際には中国人愛好家からも熱い視線が向けられました。なぜこれほど日本のウイスキーが人気なのか?業界紙で日本ウイスキーがスコッチをしのぐ高い評価を受けたことや、日本の銘柄は漢字表記のため、読みづらい欧米銘柄に比べ、なじみやすい、との見方も。

そして2018年には成都市について中国初のウイスキーメーカーも登場し、VETOという銘柄が発売されています。中国の食文化、飲酒文化はこれまでの伝統を残しつつ、富裕層や若者を取り込んでここ数年で新たなウェーブが起きつつあるようです。中国産の威士忌が日本で店頭と並び日が来るかも知れません。

KHE(中国・蘇州)(総経理: 山本 博史)

日本では移動制限が解除され、少しずつニュー・ノーマル時代へ向かっているように感じられますが、ここアメリカは、また最悪の状態に戻ってしまっています。感染者の増加ペースは毎日2万人前後だったのですが、このところ3万人を超えて増え続けています。そして死者数も遂に12万人を超えてしまいました。

先日ワシントン大学保険研究所は新型コロナウイルスに関連し、アメリカ国民のほぼ全員がマスクを着用しなければ感染死者数は、今年の10月までに18万人に達するだろうと発表しています。ただ、アメリカ国民の95%がマスクを着用し始めれば死者数は14.5万人に減るだろうとも指摘しています。ここまでハッキリ言われれば誰もが着用するのではと思うのですが・・・なぜアメリカでマスク着用が普及しないのか?その歴史的背景とは何なのかを簡単にご説明いたします。

日本人からするとその行動は自分勝手に見えるかもしれませんが、その背景には『政府の権力』と『個人の自由』の主張のせめぎ合いというアメリカ建国当初からの歴史が複雑に存在しているからなのです。

その代表がトランプ大統領で彼のマスク嫌いは良く知られています。保険局がマスク使用を指示した際、さすがに公には反対しませんでしたがあくまでも『自由意志』によるものと繰り返し強調し、自身は従わないと述べています。

先日カリフォルニアでは一度は緩和されていたマスク着用が再度義務化になりました。一方でその議論をめぐって保険当局者が脅迫を受け辞任してしまいました。自由や権利はわかりますが他人に対する思いやりや社会への責任はどうなっているのでしょうか。我々は状況がこれ以上悪くならない事を祈るばかりです。

KCS(アメリカ)(COO: 板垣 仁志)

ステイホーム期間中は多くの人があるべく外食を控え、自炊を行うので衛生状態を確認できます、また自らが『プロ』のシェフに変身し、作ったことのない料理を学んだりします。

最もよく選ばれたのは老若男女問わず、パン作りです。驚くべきことに、パン作りに必要な材料や機器がたくさん購入されています。専門店に行くと、店の棚が空っぽになっていることが多く、オンラインショップでも在庫切れが多数ありました。焼いたものを友人に販売する人もいれば、自宅用の方もいます。このように自炊する方が増えれば、レストランなどの飲食業が苦しんでいることは容易に理解できます。

私にとっても料理は最近のトレンドとして熱中しており、ジャガイモでシンプルなインドネシアのコロッケを作ってみました。コロッケを作ることがこんなにも簡単だと知りませんでした。初めてでしたが美味しかったです。また作ってみたいと思いました。

KIO(シンガポール)(E.Wong)

～オランダの美しい自然保護区～

オランダの北部に西フリースラント諸島と呼ばれる島があります。テッセル島、フリーラント島、テルスヘリング島、アーメラント島、スヒールモニコーフ島の全部で5つの島があります。島と本土の間には小さな海があり、ワッデン海と呼ばれています。

テッセル島は5島の中で最大の島です。多様なテッセル砂丘国立公園が素晴らしく、湿った砂丘の谷、乾燥した森林、広大なビーチなどがあります。また、この島には灯台があり、この灯台に上ると海のパノラマビューを楽しむことができます。フリーラント島では、干潟を歩くことができます。徒歩でワッデン海を渡る、特別なウォーキングツアーがあります。テルスヘリング島には素敵な自然保護区があり、穴場ビーチと非常に美しい塩沼がある広大な砂丘地域です。アーメラント島には、美術館がいくつかあり、他とは違うものや島に関連するお土産を購入できる素晴らしいショップがあるので、やる事がたくさんあります。また、この島には、海にいくつかアパートがあり、宿泊やキャンプができます。5島の中で最小のスヒールモニコーフ島ですが、ビーチ、砂丘、森、干拓地、海、淡水の池などがある大きな自然保護区があり、素晴らしいです。リラックスして歩いたり、自転車に乗ったり、主に鳥ですが様々な動物が見られます。オランダで本当に素敵な場所です。

KIO(オランダ)(Jan van Mier)